

院内感染予防対策ワードオーデットを使用して

—感染予防対策における有用性—

HICT 協力員の会 ○小川外志江 田中郁美 種池美智子
中村洋子 龍口さだ子

Key word 感染予防対策 オーデット

はじめに

近年、感染管理が重要視され、組織的に感染対策活動を行っている施設が増加し、効果を上げている。しかし一方では、対策を講じているにもかかわらず薬剤耐性菌の出現、セラチアや緑膿菌などによる日和見感染の増加など、さらに新たな対策を講じることも求められてきている。

当院では迅速な感染予防対策を行っていくため、院内感染対策チーム (HICT) が作成した「院内感染対策マニュアル」に沿って感染予防対策が実施されている。しかし、「院内感染対策マニュアル」の遵守状況や対策の有効性の評価については、十分行われてきたとはいえない。そこで HICT 協力員の会では、遵守状況を監査する感染予防対策ワードオーデットに注目した。感染予防対策ワードオーデットを実施することで、各病棟で行われている感染予防対策の現状が明らかとなり、問題点に対しては新たな対策を講じやすくなるのではないかと考えた。

I. 目的

院内感染予防対策ワードオーデットを使用して、各病棟で行われている感染予防対策の現状とその変化を明らかにし、院内感染予防対策ワードオーデットの有用性と今後の感染予防対策における課題について検討する。

II. 研究方法

1. 院内感染予防対策ワードオーデットの作成手順
2002 年度～2003 年度 HICT 協力員の会で、英国のガイズ アンド セントトーマス病院の 8 分野 115 項目の感染予防対策ワードオーデットを参考に、当院の実状にあわせて内容を検討・変更して 6 分野 70 項目 (表 1) の院内感染予防対策ワードオーデットを作成した。
2. 調査期間
一回目 2003 年 10 月 二回目 2004 年 1 月
3. 対象
20 部署病棟看護師 384 名

4. 調査方法及び分析方法

1) 各病棟看護師が自らの病棟について院内感染予防対策ワードオーデットを一回目実施。その結果からオーデットスコアが 60%未滿の項目について HICT 協力員の会で改善策を検討し、各病棟に働きかけ、二回目の院内感染予防対策ワードオーデットを実施した。
2) ワードオーデットは、「はい」「いいえ」「判定不能」のいずれかを選んでチェックする。また、病棟全体の結果としては HICT 協力員の会で協議し、各病棟において「はい」を選んだ看護師が 60%に達した場合にその病棟における「はい」とした。

3) 院内感染予防対策ワードオーデットは「はい」の答えが得点になり、オーデットスコアは「はい」の合計数/質問の合計数×100 (%) で評価した。

5. 倫理的配慮

データは研究目的以外には使用せず、個人を特定できないように統計的に処理した。

III. 結果

1. 一回目オーデットスコア

分野別にみたオーデットスコアは、院内の環境 (64%)、器具・器材の取り扱い (67%)、リネンの取り扱い (80%)、基本的予防対策 (86%)、医療廃棄物の処理 (88%)、手の衛生 (94%) であった (図 1)。特に院内の環境の中では病室 (40%)、トイレ (55%)、浴室 (55%) のオーデットスコアが 60%に満たなかった (図 2)。全項目中 20 項目においてオーデットスコアが 60%に満たなかった (表 2)。逆にオーデットスコアが 90%を超えていたのは院内の環境の中の配膳時 (100%)、医療廃棄物の処理の中の医療廃棄物と感染性医療廃棄物 (100%)、手の衛生 (94%)、基本的予防対策の中の中心静脈カテーテルの管理 (92%) であった (図 2)。

2. 二回目オーデットスコア

分野別にみたオーデットスコアは、院内の環境 (73%)、器具・器材の取り扱い (74%)、リネンの取り扱い (82%)、基本的予防対策 (92%)、医療廃棄物の処理 (93%)、手の衛生 (98%) であった (図 1)。特に院内の環境の中では病室 (54%) のオーデットス

コアが60%に満たなかった(図2)。全項目中11項目においてオーデットスコアが60%に満たなかった(表2)。逆にオーデットスコアが90%を超えていたのは院内の環境の中の配膳時(100%)、医療廃棄物の処理の中の医療廃棄物と感染性医療廃棄物(100%)と針等鋭利物の取り扱いと廃棄(90%)、手の衛生(98%)、基本的予防対策の中の標準予防策(92%)と中心静脈カテーテルの管理(94%)であった(図2)。

3. 全項目の平均オーデットスコアの比較

全項目の平均オーデットスコアは一回目が76%で二回目は83%であった(図3)。

IV. 考察

一回目のオーデットスコアで最も低かった分野は院内の環境(64%)であり、特に病室、トイレ、浴室や診察室・スタッフステーションにおける清掃や整理整頓が不十分であることが明らかとなった。院内の環境においては、看護師のみでなく看護助手・清掃業者が多く関わっている現状があり、看護師だけへの働きかけだけでは、改善できない。この結果をふまえ、HICT協力員の会で協議した結果、看護助手にもオーデット用紙を配布し認識を高める働きかけをしたり、新たに環境整備日を決めて取り組んだり、ベッド洗浄を促進したりなどの改善策が話し合われた。また、HICT協力員自らが病院環境の基本について学習し知識を深め、各病棟で働きかけを行った。その結果、二回目のオーデットスコアは、73%と上昇したが、分野別にみたオーデットスコアは一回目と同様で最も低い結果のままであった。看護業務を行っていく上で、環境整備は感染防止やアメニティの観点から重要性が高いが、急務なことではないので後回しになる傾向があると考えられる。また、根気よく継続しなければ結果につながらないといった行動レベルでの困難さもその原因と考えられる。一方、「院内感染対策マニュアル」には、病院環境整備についての記載がなく、日常的な環境の整備と清掃に関するマニュアルの早急な追加が必要である。

器具・器材の取り扱いについても院内の環境と同様な傾向にあり67%から74%にオーデットスコアは上昇しているもののストレッチャーの清掃に課題が残っている。

リネンの取り扱いについては、80%から82%へオーデットスコアの上昇がみられた。しかし、依然として半数以上の病棟でリネンボックスに3/4以上入れている現状は変わっていない。業務の忙しさから後回しになることや、そのエビデンスが十分理解されていないことなどが原因として考えられる。

基本的予防対策においては、86%から92%へオーデ

ットスコアが上昇した。残された問題点は、プラスチックエプロンが適切に使用できるようになることである。そのエビデンスと使用方法の啓蒙をはかっていくことが必要であると考えられる。

医療廃棄物の処理は88%から93%、手の衛生は94%から98%へそれぞれオーデットスコアが上昇した。この2分野においては、一回目のオーデット開始時点からすでにオーデットスコアが高かった。これは、すでにハード面の常設化が整っていたことやソフト面のマニュアル化が図られていたことが関連しているものと思われる。また、看護師個人の知識の獲得や行動の改善がすぐに結果に反映されたことが、オーデットスコアの上昇につながったと考えられる。

オーデットとは感染予防対策が部署別標準予防策にそって確実に実施されているかを検証することである。また、オーデットは問題点の数値化が容易で、短時間で実践における問題が判明し、マニュアル自体の問題も明確化でき¹⁾、時期をずらして行えば部署ごとの改善度も把握できる²⁾といわれている。2003年10月から2004年1月という短い期間にもかかわらず、全項目の平均オーデットスコアが上昇した。これは、一回目に実施した院内感染予防対策ワードオーデット結果から、各病棟の感染予防対策上の問題点を容易に明確にすることができたこと、その問題点に対してHICT協力員の会で協議し、HICT協力員がタイムリーに働きかけたことが、二回目の全項目の平均オーデットスコアの上昇につながったと考えている。オーデットの利点が十分いかされたのではないだろうか。本来オーデットは、その職場のリンクナースが実施するのが一般的であるが、今回は、看護スタッフ全員が自らの病棟のオーデットを行った。オーデットの質問事項は標準手順書そのものであるといわれているように、オーデットを行うことが、標準手順書や院内感染対策マニュアルの確認になる。感染予防対策への知識の獲得につながり看護スタッフへの教育的効果もあったと考えている。

感染予防対策を実践する上で、感染予防対策ワードオーデットが有用であることは英国を中心に報告されている³⁾。日本ではオーデットを実施している施設はまだ極わずかであるが、池上らの感染予防対策ワードオーデットは有用であったとの報告がある^{4) 5)}。当施設でも院内感染対策マニュアルに沿った感染対策がおこなわれているか検証できたこと、病棟別に具体的な感染対策上の問題点が判明し迅速に対処できたこと、「院内感染対策マニュアル」に追加すべき点が判明したこと、短期間で全項目の平均オーデットスコアが上昇したことなどより、院内感染予防対策ワードオーデットは有用であった。

今後は、オーデットスコアが低かった項目について、そのオーデット項目がなぜ必要なかエビデンスを表示し、スタッフ一人一人がエビデンスを理解した上で感染予防行動がとれるようになること、6分野70項目にとらわれることなく常に当施設の実状にあわせて院内感染予防対策ワードオーデットを改善していくことが課題である。

V. 結論

2003年10月と2004年1月の2回院内感染予防対策ワードオーデットを実施したことにより、6分野すべてにおいて1回目より2回目のオーデットスコアは上昇し、全項目平均オーデットスコアも76%から83%へ上昇した。

VI. 本研究の限界

一施設のみのデータのため、院内感染予防対策ワードオーデットの有用性についての一般化はできないことが本研究の限界である。

引用文献

- 1) 金澤美弥子他: 外国の病院に学ぶ感染予防対策 イギリスにおけるオーデットに対する取り組みに関する考察, 環境感染, 17巻(1号), 167, 2002.
- 2) 鍋谷佳子他: 外国の病院に学ぶ感染予防対策 イギリスにおけるオーデットとサーベイランスの考え方に対する考察, 環境感染, 17巻(1号), 168, 2002.
- 3) Millward, S., Barnett, J. and Thomlinson, D.: A clinical infection control programme: evaluation of an audit tool used by infection control nurses to monitor standards and assess effective staff training. J. Hosp. Infect. 24: 219-232, 1993.
- 4) 池上美智子他: 院内感染対策におけるワードオーデットの有用性, 環境感染, 16巻(4号), 309-312, 2001.
- 5) 池上美智子他: 院内感染対策ワードオーデットの実践報告, The Experiment & Therapy, 665号, 34-37, 2002.

表1. 院内感染対策ワードオーデットの内容

| | 項目数 | 項目数 | 項目数 |
|---------------------|-----|-----------------|-----|
| I 院内の環境 | | III リネンの取り扱い | 3 |
| A. 診察室、スタッフステーションなど | 10 | IV 器具・器材の取り扱い | 5 |
| B. 病室 | 7 | V 手の衛生 | 6 |
| C. トイレ | 4 | VI 基本的予防対策 | |
| D. 浴室 | 3 | A. 標準予防策 | 8 |
| E. 汚物処理室 | 5 | B. 膀胱留置カテーテルのケア | 4 |
| F. 配膳時 | 1 | C. 中心静脈カテーテルの管理 | 7 |
| II 医療廃棄物の処理 | | | |
| A. 医療廃棄物と感染性医療廃棄物 | 2 | | |
| B. 針等鋭利物の取り扱いと廃棄 | 5 | | |

計70項目

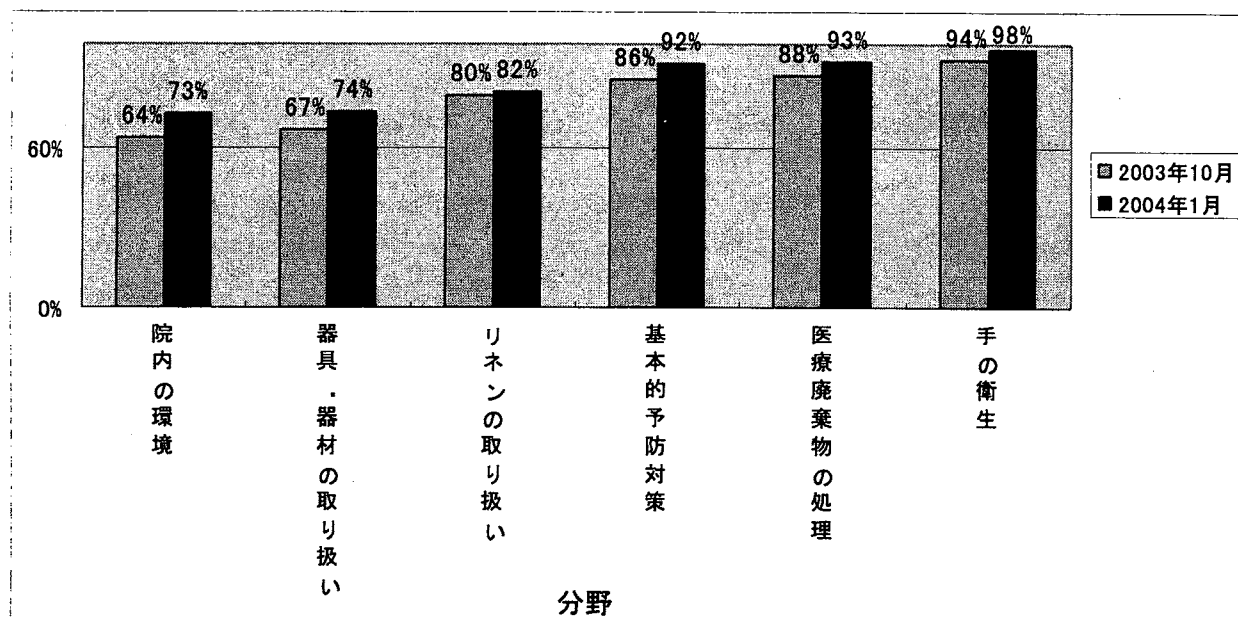


図1. 分野別にみたオーデットスコア

表2. オーデットスコアが60%未満の項目

| | 一回目 | 二回目 |
|--|-----|-----|
| I 院内の環境 | | |
| A. 診察室、スタッフステーションなど | | |
| 1. 室内が整理整頓され、清掃が行き届いている。 | 20% | 50% |
| 2. 室内に不要な物品、器材が置かれていない。 | 20% | 40% |
| 9. 薬品用の冷蔵庫内は清潔で整理整頓されている。 | 45% | |
| B. 病室 | | |
| 11. ベットのわくや柵が汚れていない。 | 35% | 55% |
| 12. 床頭台は整理されている。 | 40% | 50% |
| 14. 間接照明器具の溝、テレビにほこりがついていない。 | 15% | 25% |
| 15. 床は清掃が行き届き、汚れやほこりがない。 | 15% | 20% |
| 16. フトンやマットレスに汚れやしみが無い。 | 50% | |
| C トイレ | | |
| 19. 便器に汚れがなく、床が濡れていない。 | 50% | |
| 20. 毎日清掃されており、ほこりがない。 | 55% | |
| 21. 蓄尿器のコップ置き台が汚れていない。 | 15% | 25% |
| D. 浴室 | | |
| 22. 浴室の足拭きマットは使用後洗濯し乾燥している。 | 30% | |
| 24. 洗い桶は清潔でひっくり返して置かれている。 | 50% | |
| E. 汚物処理室 | | |
| 25. 流し場は清潔で飛びはねがない。 | 10% | 20% |
| II 医療廃棄物の処理 | | |
| B 針等鋭利物の取り扱いと廃棄 | | |
| 37. 救急カート車に針捨てボックスが乗せてある。 | 40% | |
| III リネンの取り扱い | | |
| 39. リネンボックスに3/4以上入れることをしていない。 | 40% | 45% |
| IV 器具・器材の取り扱い | | |
| 43. ストレッチャーの車輪に埃が付着していない。 | 15% | 30% |
| VI 基本的予防対策 | | |
| A 標準予防策 | | |
| 54. 血液、体液、分泌物が飛散する危険性があるときはプラスチックエプロンを着用している。 | 40% | 45% |
| 56. 咳が続く患者はマスクを着用している。 | 55% | |
| B. 膀胱留置カテーテルのケア | | |
| 61. 蓄尿バックを空にする時は、未滅菌手袋、必要時プラスチックエプロンを着用し、排出口を消毒している。 | 45% | |

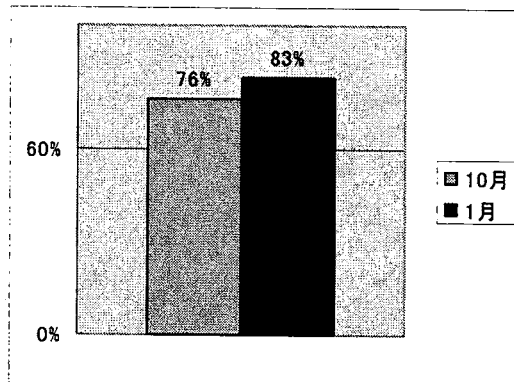


図3. 全項目平均オーデットスコア

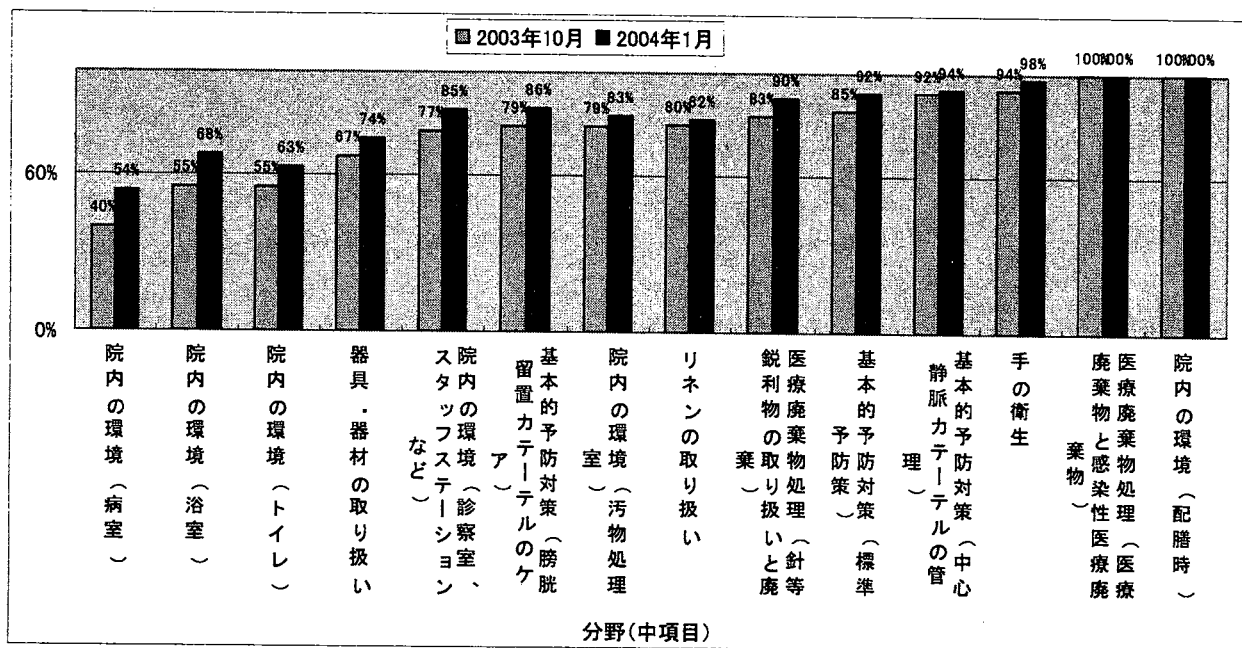


図2. 分野別 (中項目) にみたオーデットスコア